

1 ■トラック1

3 【皇室内で問題児扱いされているレイモンド。困り果てた皇帝は、隣国で

4 貴族の子息たちから高い評価を得ている教育係を呼び寄せることに】

6 ダシへ⑨

7 大臣「皇帝陛下、恐れながら…」

8 皇帝「よい。お前が言わんとしていることはわかっている。

9 (長くゆっくりと溜息)また…また、あやつか」

10 大臣「はい、レイモンド様にございます。詳細はお聞きになられますか」

11 皇帝「いらぬ。執事長に暴言を吐いたり、町娘に手を出したり、メイドを泣かせたり、

12 おおむねいつもと変わらぬのだろう」

13 大臣「は…。もう使用人一同、手に負えないと申しております」

14 皇帝「(深く溜息)どうしたものか…」

15 大臣「なんとか皇室内で問題をもみ消してはおりますが、

16 いつか表沙汰になる可能性もございます」

17 皇帝「うむ……」

18 大臣「皇帝陛下。ここは、新しい教育係を雇ってみてはいかがでしょうか」

19 皇帝「しかし、使用人も皆匙を投げておるのだろう。

20 今更、新しい者を雇ったところで変わるとも思えないが？」

21 大臣「隣国に、上流階級の子息を一手に引き受ける

22 非常に優秀な女性がいるとの情報が入っております。

23 素行不良だった子息も彼女の指導を受けて、かなり態度を改めたとか。

24 一度彼女に任せた上で、そこからレイモンド様の処遇について

25 〴〵判断されてもよろしいのではないのでしょうか」

26 皇帝「……そう、だな。おそらく無駄ではあると思うが。」

「では、彼女を早急に呼び寄せなさい。できるだけ早く」

大臣「はっ」

3

1 ■トラック2

3 【教育係としてやってきたあなた。レイモンドの部屋に入ろうとするが、
4 何やら部屋の中から怒号が聞こえる】

6 ダシへ⑩

7 レイモンド「…使用人の分際で、この俺にたてつく気か!? この役立たずが!

8 ああもういい、顔を見るだけでも気が滅入る…」

9 執事「も、申し訳ございません、レイモンド様…!」

11 〓ノック

13 レイモンド「入れ!」

15 〓部屋に入るあなた。執事、部屋から逃げ出すように出て行く。

16 レイモンド、あなたの側へ。「さっきの方は?」

18 レイモンド「ああ、いい、あの男は放っておけ」

20 ダシへ⑨

21 レイモンド「さて…ところでお前は一体誰だ?」

23 〓あなた、自己紹介する

25 レイモンド「ああ、話には聞いている。新しい教育係が来ると。

26 ふうん……そうか、お前が…ねえ。ふ、まあいい。

1 俺はレイモンド・エル・アルナヴァル。アルナヴァル帝国第二皇子だ」

3 ///レイモンド、あなたに手を差し出す

5 レイモンド「(愛想よく)ふっ。なんだ？初対面なんだから、

6 握手の一つくらいするものだろう。身分なんて関係ない。ほら、手を出して」

8 ///あなた、手を差し出す。レイモンド、後ろ手に持っていた水差しを

9 あなたの頭にぶっかける

11 レイモンド「……っ、ふふ、ふふふ、ははははははっ！あはははははっ！

12 悪いな、無言で佇んでいるものだから

13 花か何かと勘違いして水をやってしまった！

14 あは、はあー、はあー、おかしい……ずっ(笑いすぎて少し泣いている感じで)」

16 ///あなた、レイモンドの方をじっと見つめる

18 レイモンド「(半笑いで)なんだ？ 悲しいのか？ それとも…悔しいか？

19 だが、どうせお前も他のやつらと一緒にだろ？

20 (少しずつ語気を荒げて)役立たずのくせに俺にあれこれとうるさく指図する。

21 ちちう…皇帝陛下に媚びへつらう事しか考えていない、蠅のような奴らさ。

22 俺の周囲をうろつく邪魔者め！さっさと消え失せ…(急に言葉を切る)」

24 ///あなた、てきばきと溢した水を片付け始める。

26 ダシへ⑨のやや上から (ヒロインがしゃがむため)

1 レイモンド「お前、人が話している途中で、何をして…」

2

3 〽片付け終わったあなた、これで大丈夫かとレイモンドに聞く

4

5 ダシへ⑨ 高さ正面に戻る

6 レイモンド「い、いいも何も…確かに片付いてはいるが、

7 俺が話している途中で、手を止め…！」

8

9 〽あなた「問題ないのならよかった」教材を机の上に並べだす

10

11 レイモンド「待て、何だこの本は…政治学の教本？これは…貿易理論？

12 はっ、お前、女のくせにこんな勉学を齧っているのか？」

13

14 〽〽レイモンド、椅子へふてぶてしく座る

15

16 ダシへ⑩

17 レイモンド「…いいだろう、せいぜいご高説を垂れてみる」

18

19

20

21 〽〽あなた、数時間レイモンドを拘束して勉強を教える。

22 日が暮れる頃、レイモンドがうんざりした声を漏らし

23

24 レイモンド「…おい。もういい、日が暮れてきた。」

25

26 長々と退屈な授業だったな。黙って聞いてやったが、俺はこの程度
とつくのとうに頭に入っている。底が知れるな…（言葉を切る）」

1

／＼あなた「では次はより高度な物を」淡々と部屋を後にする

3

4
ダシへ⑩

5
レイモンド「…あ？次は、より高度な物を…？待て、お前！おい！

6
（困惑した感じで）…はっ、なんっ、なんなんだ、あいつは……？」

7

1 ■トラック3

2 【勉強の時間になったにも関わらず、自室に姿を見せないレイモンド。

3 教育係は城の真裏にある小さな花畑で彼を見つける】

5 ///あなた、レイモンドを見つけ声を掛ける

7 ダミへ⑬

8 レイモンド「…ちつ、本当に鬱陶しい奴だなお前は…。

9 今まで誰にも見つからなかったのに…。

10 ああ、ああ、わかったよ！ 勉強の時間なんだろう、戻るよすぐに。 ったく…」

12 ///あなた「いつもここでサボっているんですか？」

14 レイモンド「そうだよ、役立たずの使用人には教えたくないくらいには、

15 良いサボり場さ。綺麗だろ。城の真裏だが小さな花畑みたいになっていて、

16 風も心地よくて、静かで…」

18 ///レイモンド、その場にひざまずいて土を掻き分ける。あなたもその横に座り込む。

19 「何かあるんですか？」

21 ダミへ⑮

22 レイモンド「……………ここには母上が、眠ってらっしゃるんだよ。誰も来やしないけど」

24 ///あなた「誰も？」

26 レイモンド「そう、俺以外は誰も。皇帝陛下も、兄上も、使用人たちも、誰も来ない」

1
2 ///あなた「どうして？」

3
4 レイモンド「どうしても何も、皇室には相応しくない出自だからさ。俺も、母上も」

5
6 ///あなた「第一皇子は違うのですか？」

7
8 レイモンド「兄上の生まれか？ あの方は皇帝とその正妻との間の子だ。

9 俺なんか足元にも及ばないくらいに高貴なご身分さ。

10 おつむは死ぬほど弱いかな」

11
12 ///あなた「お母さまは、どんな方だったんですか？」

13
14 レイモンド「母上は…（言いよんどんでから呟く）チッ…無遠慮に聞いてくるな。

15 母上は、たとえ身分が低くたって、誰よりも聡明で高潔なお方だった。

16 とても教育熱心だったし、身分の差を実力で埋めようと

17 努力されていたのだって、俺は見ていた。

18 だから、そんな母上に相応しい息子であろうと努力した時もあった。

19 あったよ。確かにあったんだよ。でも…」

20
21 ///あなた「でも…？」

22
23 レイモンド「でも、俺は残念ながら真正正銘の馬鹿だったらしい。

24 皇室の奴らは能力も努力も見ちゃいないってことに、全く気が付かなかった。

25 ……（呻くように）母上が、こんなところに一人、

26 墓石もなく埋められているのが、何よりの証拠だろ…」

1 〱〱〱うづくまるレイモンド。

2 あなた「レイモンド様…？ 大丈夫ですか…？」

3
4 レイモンド「はぁ…（苛立つ小さな溜め息）

5 大丈夫じゃない。いらんことを話したせいで気分が悪い。

6 もう今日は勉強しない」

7
8 〱〱〱あなた「それとこれとは話が別ですよ」

9 レイモンドの腕を掴んで引っ張っていく。

10
11 ダミへ⑭

12 レイモンド「おいっ、引っ張るな！ それとこれとは話が別じゃないんだよ、おい！

13 伸びる伸びる、裾が伸びるだろうが、馬鹿…！（フェードアウト）」

1 ■トラック4

3 【女遊びが激しいレイモンド。

4 ある日の午後、出かけるので服を見繕えとあなたへ指図する】

6 ダミへ⑨

7 レイモンド「…ああ、いいところに来たな。

8 今夜は女と出かけるから、服を見繕え」

10 ///あなた「今日の課題、終えられたんですか？」

12 レイモンド「今日の分の課題か…？ ほら」

14 ///レイモンド、あなたに紙の束を手渡す。

15 あなた「これは？」

17 レイモンド「今週分の課題だ。大体それくらいだろ、いつも。

18 (イライラして)ああーもう、とつとと服を見繕えってば！

19 俺は今から湯を浴びるから、それまでに間に合わせて脱衣所に持ってこい。

20 遅れたら許さないからな。あと、戸棚の3段目に入ってる香水もだ。

21 小さくて淡い青色の小瓶だからな。間違えるなよ！」

23 ///レイモンド、部屋から出ていく。あなた慌てていくつか服装を見繕い、浴場へ。

24 レイモンド脱衣所の外からあなたに向かって叫ぶ。

26 ダミへ⑩

1 レイモンド「のろま！ おっそい！ 服は！」

2

3 ///あなた「はい、ただいま」そのまま男性用の脱衣所に入る

4 レイモンドとぼぼ裸の状態で鉢合わせ

5

6 **ダシへ⑨**

7 レイモンド「驚きは軽めで。慣れてる感じで」うわ、びっくりした。

8 一応、男性用の脱衣所だぞ、ここ。何のためらいもなく入ってくる奴があるか。

9 まあ、別に見られて減るものもないからいいけども…。

10 じゃあ、入ってきたついでに、体でも拭いてもらおうか。ほら」

11

12 ///あなた、レイモンドの体をタオルで拭く。

13 「失礼します」

14

11

15 **ダシへ① ダシへに背を向けて**

16 レイモンド「待て、頭から拭け。背中がまた濡れるだろうが。

17 そう、そう…。ああ、ああ、ああ、ガシガシするな、髪が傷む！」

18

19 ///レイモンド振り返る

20 **ダシへ⑨ ダシへに向き直る**

21 レイモンド「前から思ってたが、お前、俺のことを鼻水垂らしたガキと

22 同じ扱いをしてやしないか！？」

23 隣国で担当してたのは、おしゃぶり啜えた赤ん坊だったのか！？」

24

25 レイモンド「苛立った溜め息）っはあ…、

26 ……（悪だくみ）…ああ…。」

1
2 〓〓レイモンド、あなたを脱衣所の壁に壁ドンする。

3
4 ダシへ②

5 レイモンド「(ワントーン抑えて低めの声で)……見ろ。

6 お前の目の前にいるのは、男だぞ」

7
8 〓〓レイモンド、あなたの手を取って体に触れさせる。

9
10 レイモンド「ほら…、俺の手の動きに合わせて、触れてみる。

11 …この国の民は、十五で成人する。誰も彼もみな、たとえ心が
12 追いつかなくとも体は変わっていく。俺だってそうさ。

13 体の曲線も、筋肉の付き方も、握った手首の太さも、

14 内側に宿ってる熱も…。何もかも、お前と違う。

15 お前がいくら教育係だからと言って偉そうに俺に指図をしてこようが、

16 今、ここにいるのは、一人の男と、女だ」

17
18 〓〓あなた「こんなことをして、待たせている方に対して不義理だとは思われないのです
19 か?」

20
21 レイモンド「他の女を待たせてこんな事をしているのは不義理だど?

22 あいつらだって不義理な奴さ。

23 俺には愛も義理も求めていない。欲しいのは、金と…」

24
25 〓〓レイモンド、あなたの手首をつかみ、局部に無理やり触らせようとする。

26

1 ダシへ③

2 レイモンド「(耳元で) ここの、快樂だけだ」

4 〓あなた、抵抗し、レイモンドの頬を叩く。

6 ダシへ①

7 レイモンド「ツツ……っは、主の頬を叩くとは。

8 (半笑いで)……お前は、愛をお望み？」

10 〓あなた「愛をお望みなのは、あなたのほうではないですか？」

12 レイモンド「俺のほうが、愛を望んでるだと？ (わざとらしく)…はは、あはは、

13 面白いことを言うな、お前。じゃあ教えてやろう」

15 〓レイモンド、あなたにキス(軽め)。

17 レイモンド「……俺が女を選ぶ条件は愛じゃない。欲とタイミングだよ」

19 〓あなた、レイモンドを押し倒し、ディープキスする。(次のレイモンドの台詞途中で、
20 わざと思いつきり歯ぶつけます)

22 レイモンド「んむっ!? ん…っ、ん、ん……は…あう、んん…っう！

23 (ガッンと歯を鳴らし) いっつづ！ い……っ、てえ…お前……！」

25 〓あなた「どうやらタイミングが合わなかったようですね」

ダシへ⑩

2 レイモンド「呻くように）タイミング、合わなかったじゃなくて、

3 わざと合わせなかったんだろ…。お前、良い性格してやがるな、本当に…！

4 もういい、下がれ！」

5

6 〃あなた、服や香水の瓶を放り投げて、脱衣所から出ていく

7 「では私はこれで失礼いたします」

8 レイモンド、取り残され、壁を思いっきり叩く。

9

10 レイモンド「叫ばず）あの女、絶っつつつ対、泣かす…！」

11

1 ■トラック5

3 【その後もあなたに対し嫌がらせを続けるレイモンド。しかし、全くこたえないあなたに対
4 し、徐々に怒りが募っていく。そんな折に、メイドと執事の会話を聞きつける】

6 ダシへ⑩

7 レイモンド「…もう、勉強はいい。疲れた。机の上、全て片付けておけ。

8 ……ところでお前、この間言っていた宝石は取り寄せたんだろうな？」

10 ///あなた、机の上に宝石を出す。

12 レイモンド「ちっ、こんな粗末なもので、満足すると思うのか？

13 やっつすい光り方…。

14 これで、あの町娘を落としそになったら、お前が責任を取れよ。

15 俺が金をちらつかせながら、あいつの中身のない薄ーい会話に

16 辛抱強く付き合ってやった苦勞を、お前が台無しにするんだから…な…」

18 ///あなた、机の上にさらに宝石を何個も並べ始める。

20 レイモンド「…っ、わかった、もういい！ わかったから、

21 ある分だけ宝石を出したら、とっとと出て行け！」

23 ///あなた、部屋から出て行く

25 ///庭を散歩しているレイモンド

26 ダシへ⑬

1 レイモンド「あいつ…何をやっても全く動じやしない。

2 どれだけ無茶を言っても涼しい顔でこなしてくるし、

3 俺が言うことにまともに取り合おうともしない。

4 チッ…生意気な…生意気な奴め。無能な奴よりも余計に腹が立つ。

5 何としてでも、あいつを蹴落としたいが…どうしたものか…」

6
7
8 //メイドと執事が話し込んでいるのを見つけたレイモンド、思わず隠れる。

9
10 レイモンド「(独り言を囁く) つ…、誰だ…？」

11
12 **ダシへメイド⑨、執事⑩、レイモンド⑬**

13 メイド「新しく来られた教育係の方、どう？

14 レイモンド様にひどい目に遭わされてやしないかしら？ 私、心配でね…」

15
16 執事「いやあ、何度か挨拶してみたが意外と応えてなさそうだよ、よく頑張ってる」

17
18 メイド「それならいいんだけど…。

19 兄上様はとおってもお優しい方なのに、やっぱり血筋なのかしらねえ」

20
21 執事「まあ、あの方の母親は町人よりも下級の卑しい出だったからな、仕方ないだろう」

22
23 メイド「(溜め息)はあ…教育係の方が切り札のつもりなのかしら。

24 陛下が尽力されたって、きっと変わらないわよ」

25
26 執事「しかし、あの教育係、相当優秀だと聞くぞ。

1 教育係として働く前は、吟遊詩人だろ、武器職人だろ。
2 薬商人に、踊り子、バーテンダー…とにかく色んな仕事についていたと」

3
4 レイモンド「モノログ」何してるんだ、あいつは…？」

5
6 メイド「そうそう、教育係の仕事が終わった後、使用人たちの

7 手伝いもしているらしいわね。メイド長が褒めていたわ。

8 目を離れたら全部の部屋のベッドメイク終わらせてたって」

9
10 執事「料理人に新メニューのレシピを渡したうえに、

11 全員分の賄いも作ってたらしいぞ。

12 庭師と一緒に剪定していたところも見たな」

13
14 レイモンド「モノログ」本当に何してるんだ、あいつは!？」

15
16 メイド「そうそう、そういえばね。この前、教育係さんが…」

17
18 レイモンド「モノログ」ン…、なんだ…？」

1 【翌日、勉強を中断して椅子にふんぞり返るレイモンド】

3 ダミへ⑩

4 レイモンド「おい、そろそろ休憩でいいだろう。

5 喉が渴いた。何か飲む物をここへ持ってこい。

6 料理長には手伝ってもらうなよ。俺はあいつが嫌いだし、

7 あいつの料理は口に合わない。あと！冷たい水なんか持ってきてみる。

8 初日みたいに頭からかけてやるからな。ほら、早く行け！」

10 ///あなた、部屋から出て行く。

12 ダミへ⑫

13 レイモンド「行ったか？」

15 ///レイモンド、机の上にある懐中時計を手取る

17 レイモンド「これか…。使用人たちが話していた懐中時計は。…随分と古臭いな。

18 あいつがなぜこんなガラクタを大事にしているのか、

19 さっぱりわからないが…まあいい。もう壊してしまうんだから関係ない」

21 ///レイモンド、懐中時計に向かってハンマーを振り下ろす。

23 レイモンド「(だんだん語尾を荒げて)…くそ、くそっ、くそおっ！

24 あいつがつ、悪いんだっ、自分が評価されてるからってっ

25 余裕そうな顔しやがってっ!!」

1 ///レイモンド、最後の一振り

2

3 レイモンド「俺を、見下しやがってっ!!」

4

5 ///懐中時計、完全に壊れる

6

7 レイモンド「(息を整えながら)はあっ、はあっ、はあっ……。

8 いい、いつもこいつも、そうだった……」

9

10 ///あなた、部屋に入ってくる。懐中時計を見て、あなたの表情が凍りつく。

11 あなた「レイモンド様が、壊したのですか？」

12

13 ダシく⑩

14 レイモンド「(半笑いで)……はっ、遅かったな。見ればわかるだろ、壊したことなんて」
19

15

16 ///あなた「どうして？」

17

18 レイモンド「どうして？ どうしてもこうしてもない。

19

お前が飲み物を持つてくるのがあまりに遅いもんだから、

20

退屈で遊んでたら壊れた。それだけさ」

21

22 ///レイモンド、あなたに近づき頬をつかむ。

23

24 ダシく⑪

25 レイモンド「ああ、その面、見たかったぜ。いつもの澄まし顔はどうした？

26 俺に何を言われようとも、どんなことをされようとも、

動じなかったお前が、なあ。いまや、どうだ。

眉間に皺を寄せて、俺の事をじっと睨みつけて…。

悔しいなあ、俺のことが憎いよなあ！？

だが、いつまでもガラクタを捨てないお前が悪いんだ」

///あなた「ガラクタじゃありません！」

レイモンド「俺がガラクタだと言ったらガラクタなんだ、黙れ！」

///あなた、押し黙る。レイモンドはあなたが持ってきたお茶を飲む。

ダシへ⑩

レイモンド「(飲む音)んぐっ…ぐっ…はあ。

…はは、ははは、はははははっ、あははははははは！

ああ、酷くいい気分だ。

何度も何度も主に齒向かって、不敬な奴め。

もう二度と日の目を見れないようにしてやろうか？

それとも、嘘の罪状をでっち上げて首を跳ねてやろうか？

どうしてほしい？ 最後に俺を喜ばせた褒美だ。

特別に、お前に、えら、ば、せ、…あ？」

///レイモンド倒れる。

ダシへ②

レイモンド「おま、え？ なにを…した？ おい、こたえ、ろ…おい…」

一
レインボ、意識を失う。

■トラック6

【自室で意識を失ったあと、地下牢へ連れていかれたレイモンド。意識を取り戻す】

ダシへ①

レイモンド「……ん、んん…。(呂律回らない)なん、ら……ん、おれ…あえ…?

あう、いた、い…つめ、らい……」

///あなた、レイモンドの肩を揺さぶる。

ダシへ②

レイモンド「ん、お、まえ……」ハッ「どッ」だ? どッ……」

///あなた「地下牢ですよ」

レイモンド「ちかろう…?(徐々に意識戻り始める)

おれ、おまえが、もってきた、のみもの、のんで、そ、それで

…そうだ、たおれたんだ。倒れて、…っ倒れて、それで、ちかろうに、

…地下牢に!」

///レイモンド、意識が戻る。暴れるが、拘束具で動けない。

ダシへ③

レイモンド「っ、なん、だ、なんなんだ、これ…!手錠…!?

し、しかも、服まで、な、なんで、なんで俺裸なんだ!?

お前、俺をどうするつもりなんだ、外せ、外せよっ!」

1 〓あなた「罪人には、しかるべき処罰を与えなくては」

2
3 レイモンド「はっ？ 俺が罪人だど！お前、何を言ってるのかわかってるのか？

4 皇族を地下牢に拘束なんかしたら、お前の方がよっぽど重罪人だぞ！

5 首が飛んだって何の文句も言えやしない。なんだ？何が目的なんだ？金か？

6 俺を拷問して、一体何がしたいっていうんだ！」

7
8 〓あなた「ですからしかるべき処罰を与え、あなたを教育しなおしたいだけです」

9
10 レイモンド「…だから、その処罰ってなんなんだ？ 俺を教育しなおす？

11 どういうことだ。鞭で打つのか？ それとも、腹を殴るのか？

12 それともっ（途中で言いかけて切ってください）」

13
14 〓あなた、レイモンドの首筋に注射器を刺す

23

15
16 ダシく⑧

17 レイモンド「んぐううつ！いつ、つ…。あ、ぐ、ああ…つ、やめ、くびはっ、

18 ちゅうしゃき、でなにを…やだああっ！ やめろ！

19 ひっ、いだあい…っ、うぐうつ…」

20
21 〓あなた、注射器を抜いて、針の痕の部分舐める。

22
23 ダシく⑦

24 レイモンド「やめ、やめろっ、首筋を舐めるんじゃない！沁みる、いつ、いいい…。

25 やめろ、気持ち悪い、気持ち悪いっ！ あ、あ、やだあ…っ、

26 ん、んう、あっ、やめろおっ…！」

1
2 〓あなた、口を離す。

4 ダシへ⑩

5 レイモンド「(歯食いしばって)ふーっ、ふーっ…最っつ低…」

7 〓あなた「身体の具合はいかがですか」

9 レイモンド「身体の具合？ な、まさか、毒を盛ったんじゃないだろうな、お前！」

11 〓あなた、首を振る。

13 レイモンド「…違うのか？ じゃあ、何を打ったんだ？」

15 〓あなた「そのうちわかる」

17 レイモンド「そのうちわかるだと…？ お前、本当に何が目的なんだ、おいっ、答えろ、
18 俺に近づくんじゃない、答えろっつてば！ 答えろっつて…！」

20 〓あなた、指をレイモンドの目の前に差し出す。

22 ダシへ①

23 レイモンド「はっ…？お前、この俺に指を舐めろとも言うつもりか！？」

24 いやだ、んむ、押し付けるな、んっ、ん、いやだああ…っ」

26 〓あなた、レイモンドの前に注射器を出す

1
2 レイモンド「っ!?!やめろ、もう注射器は…! わかった、わかったから!
3 舐めるから! だから、もう痛いのはやめてくれ!」

4
5 ///レイモンド、あなたの指をくわえる。

6
7 レイモンド「んんっ…んっ、じゅっ、ん、ん…んっ」

8
9 ///あなた、指を口の中で動かし始める

10
11 レイモンド「あっ、う…! うふえ、っ、えあ、っふ、んじゅっ、
12 んぐううっ、はうっ、ふんううう…ふはあっ」

13
14 ///レイモンドの口から一旦指抜かれる

15
16 レイモンド「はーっ、はーっ、はーっ…。口の中で指を動かすな…! つんぐうっ」

17
18 ///再び口の中に指が入る

19
20 レイモンド「ああふ、んぐうう、んう…っ、んっ、んん…

21 やら…やああ…えうう、舌、しは、挟むなっ…

22 あっ、んんんーっ、んっぐ…。んんううう」

23
24 ///口から指抜かれる。

1 レイモンド「はう、う…、う、あ？ あう、あれ…なん、で…？」

2
3 ///あなた「どうされましたか？」

4
5 レイモンド「身体、からだ、あつい…なんで、こんな…」

6
7 ///あなた「媚薬の効果が出てきたようですね」

8
9 レイモンド「びやく？ びやくって、お前、正気かッ…？」

10
11 ///あなた「そうですよ」

12
13 レイモンド、息がどんどん荒くなる

14
15 レイモンド「はあっ…、は、はあ…っ、嫌、だ、

16
17 あつい、あつい…こんなのやだ、や、いや、やめっ…」

18
19 ///あなた、レイモンドの乳首を思いつきりつねる

20
21 「わがままばかりはいけませんよ」

22
23 レイモンド「ひぎっ！ い、いた、ちくび、いたいッ……」

24
25 ///あなた、乳首をつねったままで「言うことを聞けば、痛くはしませんよ」

26
27 レイモンド「ううっ…、言う事を聞けば…ってなんだ、

おまえ、俺を脅すつもりか…っ！？」

///あなた「はっ」

1
2 レイモンド「いづうつ、いたっ…！」

3 ああ、きく、いうこと、なんでもきくからあつ、

4 だから、も、ちくび、はなして、いたいいいっ…！」

5
6 ///あなた、乳首をつねるのをやめる

7
8 ダシへ①

9 レイモンド「あうつ。あつ、ああ…あ、あ」

10
11 ///あなた「それでは、一つ目の課題です」

12
13 レイモンド「ひとつめの、かだい？」

14
15 ///あなた、乳首の周辺を優しく撫で始める。

16 「乳首でイけるようになります」

17
18 レイモンド「乳首で、イけるように、だと…。」

19 ふ、ふざけるな、そんなの、絶対にむりだ…できない…」

20
21 ///あなた「できますよ」

22
23 レイモンド「だから、できっこない！

24 薬を盛られたって、乳首なんか、きもちよくない…」

25
26 ///あなた「指を舐めさせられただけで勃起している変態なのには？」

1
2 レイモンド「えっ、ぼっ…勃起…？ おれが…？

3 指、舐めただけで…？ うそ、うそだ、そんなの、ちがう、

4 そんなので興奮なんか、してない、嫌だ、変態じゃない…」

5
6 ///あなた「変態ですよ」

7 乳首を優しく刺激し始める

8
9 レイモンド「あっ、あう。んんうーっ、やめ、ちくび、さわるなあっ！

10 ちがう、俺は、俺は、へんたいなんかじゃない、

11 乳首、触られてきもちよくなんかないいつ」

12
13 ///あなた「そんなに気持ちよさそうな顔してるのに？」

14
15 レイモンド「きもちよさそうな顔なんか…っ、してな、あ、んっ。ううぐう…」

16
17 レイモンド「(モノローグ)…まずい。どうしよう、身体が薬のせいで

18 本格的におかしくなり始めてるっ…。

19 耐えなくて…こいつの前で、善がってたまるか…っ」

20
21 レイモンド「(歯食いしばる)んんーっ、んぐう、んっ、んんうっ」

22
23 ///あなた「我慢せずに声を出した方が楽ですよ」

24
25 レイモンド「やだ、んうっ、声なんか、出さないいつ」

26
27 ///あなた、レイモンドの口の中に指を突っ込み、乳首を弄る

レイモンド「んむうううつ!? んっ、んっ。んむう、ふああ。

えうう、うふえああっ♡ ひ、ひくび、いつひよに…やつ、あうえ…っ♡」

///あなた、レイモンドの口から指を引き抜き、その手で乳首を刺激する。

レイモンド「んやあ、ぬ、るぬる、するなっ、んん…」

///あなた「あなたの乳首が今どんな状態になっているか、教えてください」

ダシへ① 立ち位置そのまま、顔をそむけて

レイモンド「や、やだ、ちくび、どんなのかなんて、いいたくな、い♡はずかしい…」

///あなた、乳首を少しきつめに抓る。

ダシへ① 正面に向き直る

レイモンド「やつ!? いやだ、抓るな、

いう、言うから…っ。お、おれ、の、ちくびっ。

あう、おれの、だ、えきでっ、ぬるぬるになってるう…」

///あなた「それで？」

レイモンド「それでって…まだ、言わなきゃだめなのか…?」

///あなた「私にどうされていますか？」

1 レイモンド「どうされてる？ おまえ、に、さわられて、る」

2
3 ///あなた「どんな風に？」

4
5 レイモンド「もう、しつこい！ …ううう、言わなきゃ、どうせまた抓るんだろ。

6 わかったよ…。ちくび、おれのだえきでべとべとの、ゆ、指でくりくりされて、

7 あっ、つめで、かりかりされてう、あっあっ、やだ、んんううーっ」

8
9 ///あなた「気持ちよくなってきましたか？」

10
11 **ダシへ① 立ち位置そのまま、顔をそむけて**

12 レイモンド「だっ、から…！ あ♡ きもち、くなんか、ない…っ！」

13
14 ///あなた、強情なレイモンドにスパンキング。

15
16 **ダシへ① 正面に向き直る**

17 レイモンド「ひぐうっ！？ い、いた、やら…おしり、たたかないれ…っ、いぎいっ！」

18
19 ///あなた「気持ちいいって言いなさい」

20
21 レイモンド「あ、う、きもちいい、ちくび、きもちいいですっ！

22 きもちいい、ちくび、きもちいいからあっ、も、ゆるしてっ、

23 ちゃんというからあっ…！」

24
25 ///あなた、スパンキングを止めて乳首を再び刺激し始める。

26

1 ダシへ②

2 レイモンド「(息荒めに)あー、あ、はあっ…♡」

3
4 〃〃〃あなた「気持ちいいですか？」

5
6 レイモンド「戸惑いがちに)ん、んっ、きもちい、ちくび、

7 きもちいい…あっ、あう♡」

8
9 ダシへ①

10 レイモンド「(モノログ)言いたくないのに、こんなこと言いたくないのに…。

11 だんだん、頭の中がふわふわして、身体の真ん中が、ずくずくする…っ」

12
13 ダシへ②

14 レイモンド「はう♡ あ、あ、うう、ん♡ んっ、ひ、ひう、はあ、あ、あ♡

15 はーっ、あっ、は…♡」

16
17 〃〃〃あなた「ほら、気持ちいいってもっと言って」

18 軽めにレイモンドの尻を叩く。

19
20 レイモンド「いた…っ♡ あう、もっと、きもちいって言えっ…？

21 うう、クソがつ…。は♡きもちい、きもちいい…っ、

22 ぐ、ううー、きもちいい…♡ あえ、うう」

23
24 〃〃〃あなた、レイモンドの乳首を舐める。

25
26 ダシへ①

1 レイモンド「や、なめるな、あ♡ おれの、だえき、なめとろうとするな…っ！
2 んん♡ おとこのちくび、なめたって、なんもでないからあつ♡
3 ちゅうちゅうしないれ…♡ はう、んんう♡」

4
5 ///あなた「レイモンド様」

6
7 レイモンド「あう♡ なに…？」

8
9 ///あなた「もう少し、激しくしても大丈夫ですか？」

10
11 レイモンド「えっ、これいじょう…？ これいじょうは、ま、まって、まで…！」

12
13 ///あなた、レイモンドの言葉も聞かず、乳首を刺激する。

14
15 レイモンド「も、もう、やめれ、ほんとにきもぢくなっちゃう、これ以上はあつ♡

16 はう、はひゅっ、ああ、んっ、ああ、ああ♡

17 やらあ、きもぢい、まつで、おねがい、も、

18 んぐっ、んあああつ…！♡」

19
20 ///レイモンド、射精する

21
22 ダシく⑧

23 レイモンド「んう、はあっ、はあっ、はあっ、はあっ、はあっ、はあっ、

24 はあっ、はあっ、はあっ、はあっ、はあっ…！！

25 あ…っ♡ う、うそ、だ、おれ、いった…？

26 やら、ちがう…。こんなの、こんなの、おれは、認めない…っ！」

1
2 〃あなた、レイモンドに自分の下半身を確認させようとする。

3
4 ダミへ①

5 レイモンド「やだ、いやだ！ 俺は見ない！

6 ちくびで、しゃせいしたのなんか、見たくない…っ」

7
8 〃あなた「仕方ないですね、では身体にわからせるしかないでしょう」

9
10 レイモンド「んえ、からだに、わからせるって、どういう…。ひぐっ！?♡

11 だめ、だえ、もういつがい、なんて、むりっ、むりい♡

12 あああ♡ ああ、ゆるして、も、おかしくなるう…」

13
14 〃あなた、レイモンドの懇願も聞かず、乳首を刺激し続ける。

15
16 レイモンド「らめっ、ちくびで、またイぐっ、イっちゃ、おかしくなう、やあ♡

17 かりかりされるのも、なめられるのも、ぜんぶきもちいい♡

18 きもちいいのっ♡ だめえ、やああ♡

19 イく、イく、イくっっ、イくうううっ♡♡」

20
21 〃レイモンド、再び射精する

22
23 レイモンド「あぐっ…、はあっ、はあっ、はあっ、はあっ、はあっ、はあっ、

24 げほっ…！はあっ、はあっ、はあっ…ふ、あ、あ♡ はあ…♡」

25 【乳首責めで二度絶頂したレイモンド。あなたは、さらに二つ目の課題としてレイモンドに
26 会陰責めでの絶頂を指示する】

1
2 〃あなた「じゃあ、二つ目の課題です」

3
4 レイモンド「やだ、も、課題は、いやだあ。ふたつめなんか無理…」

5
6 〃あなた、レイモンドの会陰を刺激し始める。

7
8 レイモンド「ひゃうっ!? な、なんだ、そんな所、触って、どうしようっていうんだ…」

9
10 〃あなた「ここは会陰と言います。うまくいけば、射精せずに絶頂できます」

11
12 レイモンド「会陰…? しゃせい、せずに絶頂…って、それ、まずいんじゃない…」

13
14 〃あなた「まずはありません。さっきよりずっと気持ちいいですよ」

15
16 レイモンド「やだ、やだ…! さっきよりも、すごいの来たら、

17 もう、おかしくなるから! いや、いや、やめろっ!」

18
19 〃暴れるレイモンド。あなた、注射器でさらに媚薬を打ち込む。

20
21 ダシく⑧

22 レイモンド「ひいっ!? あ、いた、い、また注射器…」

23 くすり、いや、いやあ、うたないれ、いやあ…っ。

24 はー♡ はー…♡ らめ、からだ、あづい、ううー♡」

25
26 〃あなた、注射器を放り投げ、会陰部を何度も繰り返して押し込む。

ダシへ①

レイモンド「はう、そこ、ぐっぐつて、おしこまないれ…♡ あ♡

(控えめに)は、あう…。はあ、ん、んんー♡

んっ…ああ。は、あ、あ♡ あ、う…？ んっ…？」

レイモンド「(モノログ) なんだ…？ 腹の奥がじわじわくすぐったい程度で、

想像しているよりも、そこまで快感が激しくない…。

さっきより気持ちいいというのは、俺を脅すための嘘だったのか…っ？」

///あなた「レイモンド様」

レイモンド「う、なに…？」

///あなた「物足りなさそうですね」

レイモンド「なっ！？ 別に物足りなさそうな顔なんかしてない！」

///あなた「申し訳ありません、もう少しこのままで我慢してくださいね」

レイモンド「もう少し我慢しろって、なんなんだ！

別に、そんなすごい快感も望んでないし、物足りないなんて思っていない…

っあ♡ も、はなし、きけ、ばか…♡ あ、ううー…」

///こぼさへ、会陰のみ刺激

ダシへ⑧

2 レイモンド「(口からだだ洩れてる感じで)あー、あー…。はあ、うーっ♡

3 んっ、んうう…♡ふうーっ、ううーっ、あああ…♡

4 もう、えいんばつか、しっこいい…♡」

6 ///あなた「そろそろ良さそうですね」

8 レイモンド「え、そろそろ、って、にやにが…」

10 ///あなた、乳首を同時に刺激し始める。

11 レイモンド、突然の快感に驚く。

13 レイモンド「あゝあゝっ!!?♡ひやぐっ、ふあああうっ♡

14 まっれ、ちくびといっしょ、なんで、こんなきもちいの…っ♡

15 んんんうー、きもちすぎる、まって、まって、まって…!!」

17 ///あなた、一旦手を止める。

19 レイモンド「(息切れ)っ、はあ…はあ…。こゝれ…らめ…。

20 つひゅ、う、だめ…ほんとに、ほんとにだめ…しぬ…」

22 ///あなた無視して、再開する。

24 レイモンド「んんんううあ♡らから、だめっっていってるのにい♡

25 だめ、だめ…っ！おねが、まっれ、おながのおく、へん、

26 とける、とけちゃ、あ、あーっ♡」

1
2 ///レイモンド、限界が近くなり、体の制御が聞かなくなり始める。

3
4 レイモンド「(ほぼ絶叫で)やらああ、だめ、だめなのきちやう、きちやう、うゝ！」

5 あー、あーっ、あああああっ!!♡ あああああああっ♡♡」

6
7 ///レイモンド、ドライで絶頂した余韻に浸る。

8
9 **ダシへ⑧ 立ち位置そのままです。耳元に近く**

10
11 レイモンド「はあっ…!ああっ、はあーっ、はあーっ、はあーっ、はあーっ、

12 かはっ、はあーっ…はあーっ…はあっ…

13 お、あ…。あ…へ…っ、あゝあ♡もお、むり…っ」

14
15 ///あなた、レイモンドの下半身に潤滑液をかけ、アナルに指を挿入する。

16
17 **ダシへ⑥**

18 レイモンド「やっ! (滑舌かなり甘めに)

19 お、しり、にやに…なんれ、ゆび…いれうの…っ。はあ、あ、ん…♡」

20
21 **ダシへ⑨**

22 レイモンド・モノローグ「ん、これ、さぐられてる…!」

23 おれの、いちばん、変なところ、ゆびで、さぐられてる…っ」

24
25 ///あなた「最後の課題です。連続ドライでいってください」

1 ダシへ⑥

2 レイモンド「やらあ、れんぞくでいくのなんか、しんじやう…。

3 あ、んっ、んあ…♡ はふ、う、う、んああつ。あ、ん♡

4 ゆび、ばらばら、やめて…っ。は、は、あぎっ!? んひあああああ!?♡」

6 ///あなた、レイモンドの前立腺を探り当てる。

7 「っっっですね」

9 ダシへ⑧

10 レイモンド「(半泣きで)やら…そこ、そこ、らめ。

11 きもちよくなっ、ちやう、かりや♡

12 そこだけは、ゆるしてえ…っ!おねがいつ、

13 かだい以外のことなら、なんれもするからあっ!」

15 ///あなた「だめです」

16 前立腺を内側から刺激する。

18 レイモンド「んんんんっ♡ あっ、ああんっ、あんっう、ああああ♡

19 やめてえ、ばかになりゆ、また、さっきのみたいに、せーえき、

20 でないのくる…っ♡ やああ、やら、きもちいいーっ!!♡」

22 ///あなた、レイモンドにスパンキング。

23 レイモンド、叩かれるたびに感じてしまう。

25 ダシへ①

26 レイモンド「お、っ、あぐっ♡ あ、あ、♡いだいっ、いだいのっ、きもちい♡

1 たたかれうのっ♡ きもちいつ♡ あ、お…っ！ うひああっ！♡
2 らめ、も、おれ、おかじいつ、おかじくなくて、る…っ♡」

3
4 ///あなた「おかしくなっていていいですよ」

5 前立腺責め、より激しくなる

6
7 レイモンド「やあ、も、おかしくな、っちゃ、なんも、わかんないっ♡

8 ふあふあ、する♡ らめ、イ、ぐ、また、イぐうう…っ！

9 やあああああゝゝっ♡♡」

10
11 ///レイモンドが絶頂後も、そのまま会陰と前立腺を刺激し続ける。

12
13 レイモンド「あああああんっ♡ らめ、いったばっか、なのにい♡

14 ひゃぐううっ、しぬ、しんじやうう、しぬっ♡

15 イ、ぐ、ずっと、いつでうっ、

16 あっあっあ♡ あーっ♡ んひああ、えう、んんんっ。

17 お、あぐうあああっゝゝゝっ♡♡」

18
19 レイモンド「うひ、はう、っげほ、げほっ…はへ…っあ、ああ、

20 はあっ、はあっ、ああ…っ！」

21
22
23 ///一旦フェードアウト

24
25 【複数回ドライでイカされてしまい、心身ともに限界を迎えたレイモンド。

26 ついに泣きじゃくりながら、教育係に許しを請う】

27

1 ダシへ③

2 レイモンド「ああ♡ ひ、ひう♡ ああんっ♡ は、は…(息震える)…ひっ、う…」

4 ///あなた、レイモンドの様子がおかしいことに気付き、手を止める

6 ダシへ②

7 レイモンド「…ゆるじて…えう、も、だめっ、だめ…うえ、

8 (だんだん、泣くのをこらえられなくなってくる)

9 えふ、あ、ううー、うううー、うええ、えぐっ、ひっ、うええええん…」

11 ///あなた、レイモンドの拘束をほどき、落ち着くまで少し待つ

13 ダシへ① 下を向いて

14 レイモンド「えう、も、おれなんか、だれにも、みとめてもらえない…。

15 ひっ、おまえだって、おれのこと、ばかにしてるんだ。

16 だから、おれに、こんなこと、するんだ…」

18 ///あなた「馬鹿にはしていません」

20 レイモンド「…うそだ。ははうえが、死んで、から、だれも、おれのことを、

21 ちゃんとみてくれない…っえう。みんな…う、みんな、

22 おれの血筋のことばかり。おれだって、この国のために、

23 いっぱい、勉強して、どりよくしたのに。

24 でも、おれのどりよくなんか見てくれない。

25 あにうえばかり、血筋がいい、あにうえばかりみんな…」

1 〱あなた「私は、あなたの教育係として、あなたは優秀な方だと思っていますよ」

2

3 レイモンド「そんなの、口だけだ…。おれのこと、認めてくれるやつなんか、

4 みんな皇族とのつながりがほしいだけだ…っ」

5

6 〱あなた「私は皇族との繋がりになんか、全く興味がありません」

7

8 ダミへ① 正面に向き直り

9 レイモンド「なんだって…？ そんなの、興味ない…？ じゃあ、何に興味を…？」

10

11 〱あなた「レイモンド様自身に興味があります」

12

13 レイモンド「…おれ自身？ ぐすっ…どうして、そんなことを…っ」

14

15 〱あなた「あなたに興味があるから。」

16 あなたの未来のために、本気で反省してほしいから。」

17

18 レイモンド「…ほんきで、反省してほしい、から？」

19 おれの、みらいのため…に…？」

20

21 〱あなた、うなずく。

22

23 レイモンド「なあ、じゃあ、お前はおれを見ってくれるのか？」

24

血筋も悪ければ皇室内に誰も味方なんていないおれを、

25

ちゃんと、一人の人間として受け止めてくれるのか…？」

26

1 ///あなた「もちろんです」

2

3 レイモンド「ほんとに？」

4

5 ///あなた「本当です。私が、ずっとそばにいます」

6

7 レイモンド「…うそじゃない？　ずっと、そばにいてくれる？」

8　ほんとに、おれのこと、ぜんぶうけとめてくれる？」

9

10 ///あなた「嘘はつきません」

11

12 レイモンド「…じゃあ、ぎゅうして。それで、キス、して…」

13

14 ///あなた「その前に私とも約束してくださいますか？」

15

16 レイモンド「おまえとも、やくそく…？　どんな…？」

17

18 ///あなた「今までの行動をきちんと悔い改め、使用人には二度と冷たくしないでくださ

19　ら」

20

21 レイモンド「…ん、わかった。やくそく、まもる…。

22　もう、使用人たちには、つめたくしない…。ちゃんと、みんなに、あやまる…」

23

24 ///あなた、レイモンドにキスする。

25

26 レイモンド「んう…！　んっ、ん…。う…♡

27　ふは、あ…あ、もっと、もっと、キスして。いいこいふこつて、して…」

1
2 ///あなた「では、私や使用人たちにきちんとごめんなさいを言えたらしてあげましょう」

3
4 ダシへ③

5 レイモンド「ごめんなさ、ごめんなさい、ひどいこと、

6 いっぱい言っでごめんなさいい…。

7 おれ、いっぱい、ごめんなさ、できるよ。

8 だから、はやくキス、して…っ♡」

9
10 ///あなた、再びレイモンドにキスする。

11
12 ダシへ①

13 レイモンド「んむうう…♡ んっ、んっ、う♡ ふああ…んっ、は、はあ♡

14 ごめんなしや、あ♡ ごめんなさいい、わるいことして、

15 ごめんなさ、いつ、あ!?!♡」

16
17 ///あなた「いっぱい謝れたご褒美をあげます」

18 会陰と前立腺を一度に責め始める。

19
20 レイモンド「ああああ♡ またきもちいいの、いっぱい♡

21 きもちい、あ、あ♡ ぜんりつせんと、えいん、いっぺんは、らめえっ♡

22 ごめんなしや、わるいことしたのにいつ♡きもちくなって、ごめんなさい♡

23 あ、もっと、もっと、あん♡♡ あ、ああ♡

24 あは、あえうううううっ♡♡ イ、ぐうううううっ♡♡♡」

25
26 ///レイモンド、絶頂する。

2 ダミへ②から耳元に向かって

3 レイモンド「は、はあ、あ♡はあっ、はあっ、はあっ♡

4 ねえ、ねえっ♡ おねがい、きいてっ…♡」

6 ///あなた「なんですか？」

8 レイモンド「は、あう、ちくび、も、さわって…♡」

10 ///あなた「手が足りないので」自分でどうぞ」

12 ダミへ②

13 レイモンド「じぶんで弄るの…？ っ、ハッ？」

15 ///あなた「上手ですよ」

17 レイモンド「えへ、おれ、あん♡ じょうず、でしょ…♡」

19 ///あなた、前立腺と会陰の刺激を再開する。

21 レイモンド「あうお…っ♡ も、ちくびも、おしりも、ぜんぶきもちーっ♡

22 はあああっ…ぐ、う、ああん♡

23 ごめんなしや、あ、あ、あ、あああーっ♡

24 ごえんな、さ、あ♡ あへああっ、おおああ♡

25 また、またせーえきでないやつ、くるっ♡しゃせいしないれ、いつちやう♡

26 ああん、も、だめ、になっちや、う♡ あ、あ、あ、あ、あーっ♡」

1
2 〓あなた「だめなあなたでも、全部愛して受け止めてあげますよ」

3
4 レイモンド「んっ♡ だめな、おれも、あいしてえっ♡

5 おちんちん、つかいものにならなくても、いいいいこしてっ♡

6 あ、らめ、ごめんなさ、も、おれ、だめええ♡ あえうううううううううう♡

7 イぐ、イぐ、イぐうううううううううう♡♡♡」

8
9 〓〓〓レイモンドは絶頂し、そのまま意識を手離す。

10
11 **ダミへ②から耳元に向かって**

12 レイモンド「(上の空で)っあへ、あええ♡ あー、あー…♡ あううーっ♡

13 ああーっ、はあーっ、はあーっ、はあーっ、はあーっ、はあーっ…♡」

1 ■トラック7

3 【新しい教育係が来てから数ヶ月。レイモンドの素行も落ち着き、使用人にも優しく接する
4 ようになった。皇室には平和が訪れる】

6 ///レイモンドに呼び出されたあなた。ドアをノックしようとする中から話し声が聞こ
7 える。

9 ダシへ⑩

10 レイモンド「…ありがとう、前に頼んでいたものを持ってきたんだな。

11 …何？ いや、気にしないでくれ。失敗は誰にでもあるものだから。

12 それに私もそんな程度のことですぐ怒ったりしないよ。

13 …ふふ。また、何かあったら頼む」

15 ///部屋から執事が出て行く。あなた、そのまま部屋に入室。

17 ダシへ⑨

18 レイモンド「来たのか。聞いたぞ、またメイドや料理人たちの仕事を

19 手伝っていたらしいな。先日は、ついに大臣の雑務まで手伝ったとか…。

20 優秀なのはいいことだが、体を壊されては困る」

22 ///レイモンド、あなたの側に近づく。

24 ダシへ①

25 レイモンド「お前はずっと、俺の傍にいてくれなくては。

26 …お前が、俺を変えてくれたんだから。

1 お前が、俺を受け止めると言ったんだから。

2 (声を潜めて)…俺を、教育してくれるんだろ？ ずっと」

4 ///あなた「それはどうでしょうね」

6 レイモンド「それはどうかって…やめろ、そんなこと言わないでくれ。

7 いい子にするから…っ」

9 ///あなた、指を差し出す。

10 レイモンド躊躇なく咥える。

12 レイモンド「んむっ、んっ、じゅっ、ふうん…っ。あ、へう、あはえ…♡

13 んんむう、はふ、んじゅ、んんう…♡」

15 ///あなた、指を口から引き抜き、レイモンドを撫でる。

17 ダシく⑧

18 レイモンド「あ♡ 俺、えらい？ ゆび、いっぱい、しゃぶれて、

19 ふふふふっって…♡」

21 ///レイモンド、あなたに抱きつく。

23 ダシく⑧から耳元に向かって

24 レイモンド「ずっと、そばにいて。

25 もっと、おれのこと、めちゃくちやにして、あ…♡」

1 ■トラック 8

3 ダミへ⑭
4 メイド「あら、教育係さんお疲れ様」

6 ダミへ⑯

7 メイド「あなたが来てくれてから、本当に助かってるわ。
8 雑務もよく手伝ってくれるし、レイモンド様の態度も
9 とつても良くなられたようだし。でも！あんまり無理しすぎちゃダメよ？
10 きつちり休養を取ること！」

12 ///メイド、あなたが手に持っている懐中時計に気付く。

14 メイド「ところで…その懐中時計、とっても素敵ねえ。

15 素朴だけど、それがかえって上品だわ。

16 前に持っていたのは、壊れちゃったの？うんうん…うんうん…

17 あら、あれってあなたの物じゃなかったの！ゴミ捨て場から拾った物…？

18 なあんだ、大事そうに持ってたから、てっきりあなたのものだ…。

19 早とちりしちゃったわ。私、ここのところ忙しくて疲れてるのか、

20 こんなことばかりなのよね…はあ…」

22 ///メイド、あなたの肩を叩く

24 メイド「声を潜めてね、メイド長にバレないように、二人でこっそりお茶でもしない？

25 料理長が作ってくれた美味しいクッキーがあるの。

26 ああ、レイモンド様に差し上げてもいいかもね。

今のあの方なら、きっと素直に受け取ってくれるでしょう？

(明るい声で)ほらほら、行きましょ！」